

Go to Next Stage

進路の悩みは多くの生徒が抱えているものです。今回は進路決定において確認したいことを載せてみます。参考にして下さい。

中学生の進路決定法

進路の決め方は？

中学校も1年生、2年生の頃は部活動や日々の勉強などに打ち込んで、なんとなく毎日が過ぎていますが、2年生の半ば頃から3年生になってくると、進路について悩む生徒、迷う生徒が多くなってきます。

それまでは、なんとなく部活動や学校の勉強を言われるがままに進めていけば良かったものが、高校進学に向けて、高校選択が出てきますので迷いが生じます。

高校選択においては、自分の学習レベルに応じたランクの学校を選択していくことになりますが、同時に普通高校、工業高校、商業高校、農業高校なども選択しなければならない場合もあります。

普通高校であれば選択についてはランクを決めていけばよいですが、工業高校や商業高校、農業高校ともなると、将来の就職先も気になってくることです。

自分の将来就職したいことや、やりたいことが決まっている生徒は、商業系、工業系、農業系などの専門分野へ進んでいくことで技術も同時に身につけていくことができます。しかし、まだ将来やりたいことが見えていない生徒については普通高校を選んでおくのが良いでしょう。

悩むことも時には必要ですが、悩んでばかりでは前に進まなくなります。ある程度悩んだら、あとは目の前のやるべきことをしっ

かりと着実にこなしていくだけです。

進路の悩みは？

中学生の進路においては、高校への進路についても悩むところですが、やはり将来どのような職業に就きたいのか、やりたいことが何なのかがポイントになります。

将来の選択がある程度見えてくると、高校選びも比較的容易になってくるものです。でも、将来の職業を中学生のうちに決めなければならないなどと焦らなくても大丈夫です。実際、私が中学生の頃、将来教員になろうと強く思っていました。

自分の可能性はまだまだこれからですので、中学校、高校と自分磨きに努めて自分に何が向いているのか、何をすべきなのかをしっかりと見据えた上で、将来像を立てていくとよいでしょう。



生徒総会(5月20日)

親の意見は？

中学生の頃は迷いや悩みも多い為、いろいろな人からの助言やアドバイスをいただくことも多くなっていくでしょう。学校の先生などからの助言もありますが、やはり最も身近にいる親からのアドバイスが大きく影響することもあります。

これからの見えない未来について、人生経験の多い親からのアドバイスは大変ありがたく、参考になることも多くあります。しかし、最終的に決めるのは自分です。

親からのアドバイスを受ける際にも、自分のやりたいことがうっすらとでもある場合には、それらを伝えておくことが良いでしょう。自分の夢や目標を伝えておくことで、より具体的なアドバイスをいただけます。

進路は自分で決める

将来の自分の進路は、自分自身が選ぶものであり、たとえ曲がりくねった進み方であっても、行ったり来たりしながらの前進であっても、自分の進路は自分の足で、自分の持っている力で選んで進んで行かなくてはならないと思います。

したがって、よく分からないからといって、大切な進路問題を人任せにはしてはいけません。自分はどのような進み方をするのがいいのか、何が自分の性格にあっているのかを、真剣に本気になって考えてください。「自分の進路は自分で決める。」という強い気持ちが大切です。

高校選択は慎重に

勉強はいやだけど高校へは行く。これでは高校はレジャーの場になってしまいます。そのような進学でいいのだろうか。

高校入試では点数が足りなければ入学できません。では、自分の点数で入れるところはどこだろうかと、まるで持っているお金で買える品物を選ぶみたいな考え方で、進学

先を選んでいいものだろうか。安易な考え方では必ず失敗をまねいてしまいます。みなさんには、「行ける高校」を選ぶより、「行きたい高校」を選択してほしい。

高校へは進学したが、「勉強についていけない」、「やる気がない」、「友達がいない」ということが原因で退学したり、非行に走って退学させられたりする人がいます。みなさんはそうであってははいけません。

進路選択は慌てず慎重に、周到的な研究や事前調査を通して行いたいものであります。

夢実現に何が必要か

夢を実現する年齢から少しずつ下りてきて、計画を立てていきます。大学に行かないといけない夢であれば、大学で何を学ぶか。

その大学に行くためにどんな高校に行くか。そして、中学校では何を学ぶか。今はどうか。夢実現に必要なもの、資質、能力など、それらは勉強だけではありません。

①集団生活、②ルールを守る、③リーダーシップ、④人を支え、協力する、⑤イヤでもやらないといけない基本的な生活習慣、⑥宿題や家庭学習の提出、などいろんなことを身に付けなければなりません。義務教育を通して家庭で準備をする→学校で試す→学校で学ぶ→家庭や地域で試す。この繰り返しによって、どんどん大切な力が身に付いていきます。

では、中学校で何を学ぶか、義務教育の必要性は、『ものごとの多様な見方、考え方の素地を養う』ことだということです。これは、家庭教師でも、塾でも、学ぶことは難しいです。

家庭環境が様々な子が集まる学校ほど、この『ものごとの多様な見方、考え方の素地』は養われます。

学校生活や部活動等の集団活動の中で、「あれが悪い！これのせい！」とならないものの考え方を、中学生のうちに身につけて、夢実現を目指しましょう。